

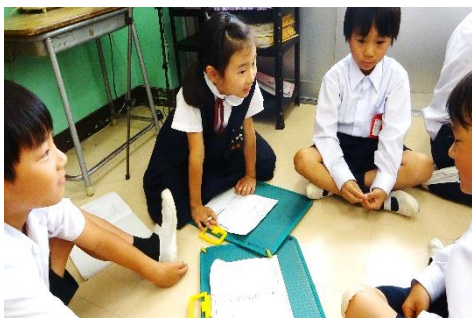
「希望（のぞみ）」の学習を通して、様々な人々とともに、積極的に、粘り強く課題解決に取り組む中で、社会において有為な人となるべく自己の向上をはかる子どもの育成を目指します！

## 文部科学省研究開発学校 5 年次を迎えて

昨今の教育界では、OECD 等が求める、社会人としての汎用的資質・能力の育成が目指されています。それをもとに、全世界でカリキュラム改革が進んでいます。その根底となるのは、キー・コンピテンシーであり、日本においては、汎用的資質・能力を 21 世紀型能力と定義しています。間近に迫っている次期学習指導要領改訂では、この 21 世紀型能力の育成が求められることとなります。

広島県でも、一昨年度から「学びの変革」アクションプランがスタートし、来年度には県下すべての学校でこれが実施されます。これも同じ目的を有した試みです。

### 幼小接続期



2 年生は、1 年生からの相談を一生懸命に聞きました。

文部科学省は 21 世紀型能力育成の促進を目指しながらも、一方で 21 世紀型能力と教科の関連性を探究することが今後の課題であるともしています。本学校園が研究延長の 3 年間で目指すのは、「希望（のぞみ）」で培う資質・能力と保育・教科との関連性の探究です。汎用的資質・能力を、学校の教育課程全

### 「希望（のぞみ）」で育つ 子どもたち

#### 入門期



年少組は、友だちと一緒に水を汲み出しながら、力を合わせてやる楽しさを味わっています。

文部科学省や広島県が育成を目指している汎用的資質・能力は、まさに、広島大学附属三原学校園で、平成 24 年度から 3 年間、文部科学省研究開発学校に指定されて開発した「希望（のぞみ）」で培う資質・能力に他なりません。おそらく次年度からは、全国でこの資質・能力の育成が求められていくことでしょう。つまり、本学校園は、国がこれから求める教育をすでに先行実施しているのです。その研究成果が高く評価された結果、昨年度からさらに 3 年間の研究延長指定を受けました。

#### 中間期



4 年生は、年長さんが成長できる交流活動になるよう工夫しています。

体を通して通教的に育成するとともに、保育・教科の学力向上も目指します。

昨年度は、研究開発課題「社会的自立の基礎となる資質・能力及び態度・価値観の体系的な育成のための、幼小中一貫教育の新領域を核とした自己開発型教育の研究開発」の4年次として、①「保育・教科」の本質に根ざした資質・能力と、「希望（のぞみ）」で育む資質・能力との関連を明らかにすること、②新たな学年区分に基づいて再編したカリキュラムに対応した評価のあり方を明らかにすることに関して、新しい研究に取り組み始めました。

## 小中接続期



6年生は、旅行会社の方の助言をもとに、修学旅行での班別自主研修の計画を練り直して、修学旅行へ臨みました。

## 最終期



8年生は運動会で「お兄さんお姉さんといっしょ」のダンスを園児さんが笑顔で踊れるようにするためには、どうしたらよいかを考えて交流しています。

研究開発5年次の平成28年度は、「社会の中で真に生きて働く力を育成する全教育課程におけるカリキュラム開発」を目指して、①12年間一貫教育を5つの「学年区分」で区切った効果、②教科の本質に根ざした資質・能力の取り組みの効果、③道徳と特別活動を含んだ「希望（のぞみ）」の効果に関して、新たにカリキュラムプロジェクトチーム、評価プロジェクトチームを設置し、研究を進めています。



教育と研究に対する本学校園の先生方の情熱には心底感服しています。

日々の忙しい仕事に加えて、「希望（のぞみ）」という新領域の非常に難しい研究開発に熱心に取り組まれる姿には心が打たれます。驚くほど加速度的に研究が進んでいるのも、ご指導をいただいているたくさんの大学の先生方からのご助言を先生方が真摯に受け止め、教育研究に反映してくださっているからだと思います。

保護者の皆様には、日々の教育活動に対しご意見をお寄せいただいたり、毎年の研究会に際し運営役員を担っていただいたりするなど、大変お世話になっております。本年度も、本学校園の研究開発学校としての使命を十分にご理解の上、さらなるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

広島大学附属三原学校園長 三村真弓

「研究開発だより」（カラー版）をHPに掲載していますので、併せてご覧ください。

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/fmihara/kenkyu/>